

研修報告書 No.11

所 属： 昭和大学藤が丘病院

研修先： 渭南病院、大井田病院

大正診療所、沖の島へき地診療所

2018年11月から12月にかけて、渭南病院や大井田病院、大正診療所、沖の島へき地診療所において、計4週間地域医療研修を行い、大変貴重な経験をさせていただきました。以下にご報告致します。

先ず初めに研修させていただいた渭南病院では、土佐清水市の中核病院として急性期患者の救急受け入れから、慢性期患者の自宅退院へのサポートを行う地域包括支援センター、自宅退院後も訪問診療や訪問看護、リハビリテーションを継続し、まさに地域に根ざした幅広い役割を一身に担っていると感じました。普段自分が研修している病院では急性期患者としか接することがないので、一人の患者さんの急性期から在宅まで継続して関わっていく医療を経験したことがありませんでした。特に印象に残っているのが住宅評価であり、看護師や理学療法士が退院後の生活を想定して、必要なサービスや道具などを提案する姿を拝見し、ここまで多職種が一人の患者さんのために深く関わっていることに感銘を受けました。

続いて行かせていただいた大井田病院は、宿毛市の中で、慢性期患者の療養や自宅退院支援、訪問診療、また予防や健康増進などの役割を担い、地域内で医療を完結させるという理念のもと、急性期患者を受け持つ幡多けんみん病院やその他医療機関と密に連携をとりあっていると感じました。訪問診療や訪問看護を頻繁に行かせていただき、距離が遠い自宅や施設など広い範囲にわたって慢性期や終末期の患者へ継続的な医療を提供していると感取しました。

大正診療所や沖の島へき地診療所では、本当にテレビや本の中でしか見たことがないような地域の診療所で、限られた医療資源のなか最善の医療を行う難しさを思い知り、今後とも得がたいような経験をさせていただきました。

県外在住医師から見た高知の地域医療の状況としては、やはり医師不足が挙げられます。医療の質について、地域医療研修前のイメージとしては、実施できる検査が限られていて、身体所見や簡便な検査を頼りに診察しなければならないと推測していましたが、実際にはCTやMRI、内視鏡など十分な設備が整っており、首都圏で診療しているのと比較して全く遜色ない医療を提供していると考えます。その高い医療水準を保つための医師の絶対数は不足しており、現状は一人一人の過大な努力によって支えられていると感じます。特に若い医師を地域に従事させる方法として、新専門医制度では基幹病院以外での研修期間が必須であり、その期間を地域で研修させること、なおかつ様々な診療科での研修が必要となるため、

地域の複数の病院をローテートして幅広い疾患を経験できるような仕組みができればと愚考します。

今回の地域医療研修で最も感じたことは自分の知識と技量の未熟さであり、今後はさらなる精進を重ねなければならないと痛感しました。お世話になった病院の先生方やスタッフの方々、貴重な機会をくださった高知医療再生機構に改めて深く御礼申し上げます。